

「私達の言葉」

海部郡佐織町

若山繁二

私は去る一月二日、北アルプス前穂高山に於て遭難した若山五朗の父であります。去る三日の夜九時頃、遭難の知らせに接しましたが、それは七十二才の今日まで、曾て私の経験した事のなり驚きも悲しみを併せた知らせでありました。その上それは遠く、雪深い高山の絶壁のお来事でありまう、老人の私としては現地へ自らに行き事も出来ず、唯狼狽するのみで、如何にも致方なし、万策尽き、生小も尚半信半疑りま、やむなく床に入りました。然しにまじく、生小も事止し出来ず、夜を明かしました。翌日と翌翌日とに其の連絡が着き、「どうか護報でも様」に念じた悲報は最早やどうも事も出来ず、悲慘な事実となりました。それはザイルの切断が遭難の原因と言ふ事せず。登山に経験の者見舞の方にはザイルの切断は絶対には信じて預けたらうです。

九日遺体捜索を断念し、現地より帰る小岳山密会の方々の御話に依れば、此の度の登山には特に従来の麻ザイルに比し、二、三倍の強力が有り、もう上極めて軽く一流メーカー（東京製鋼株式会社）の保証竹製品と言ふ好條件の下に、特に何割か高額を支払つて求めた、ナイロンザイルの使用のためであつたと聞きました。

若し若は純真な人の言葉を何の疑りも持たず、直ちに信用して使用した処、意外にも廢品に成り、何の手応へもなく切断して、アツと、言う驚き同時に「残念」の一語も

誠に、三百メートルの断崖へ墜落して行く仕舞つたと聞かされた私は、「吾が子が、この悪貨にして無責任な商人の宣傳に騙され、あたる十九才を一期として避け得よう（べき）、ナイロンザイルの試験の様々に使われたり」と考へ、今付七才吾子の、その場的心中を想像し、親としてはどうしてを残念で附之う小まん。あまうめ様としてもあまうめは、その後幾日も泣き續けました。登山同好の子を祈るには、親様方には、三楚しあはゆるず御察し願ふ事と存じます。

若し若はたれも新し物を目指す進んで取り入れ、進取の気性が旺盛であり、見れば青年の情長でありま、それら奇貨として好言を以つて頼むべからざる生命の綱を四圍は生小、尊き生命もせ取らねたのが、私の子息であります。どうか世の青少年諸君には、統て何事に依らず、生人が未経験の物を攫べんとせう時は、充分の注意と更に警戒心とを以つて為る頂上度りむす。世の中には人道に反する、悪貨誇大に、怒も己が利益は他を省く類の宣伝を平然と居る者、若し若の事には御注意願ひ度り。不幸なる遭難者の父として、青少年諸君に願ひ致します。